

2007年9月28日

No. 299

＜報道関係各位＞

次世代を担う子どもたちに伝えたい思い、体験談、エピソードを  
全労済が広く全国から募集します！

## 「思いやりのリレー」

～親から子へ 子どもから未来へ、伝えたいこと残したいこと～

■応募方法：ハガキ、ホームページ、携帯で応募

<URL><http://www.zenrosai.coop>

■募集締切：2007年11月22日（木）

「こくみん共済」など各種共済を取り扱う「保障の生協」全労済（全国労働者共済生活協同組合連合会 理事長・石川太茂津）は、2007年9月29日に創立50周年を迎えます。50周年を迎えるにあたり、「たすけあい、未来へつなぐNEXT50」をスローガンとし、これまでの50年に感謝しつつ、これから50年をみつめていこうと考えています。

今回、“「思いやりのリレー」～親から子へ 子どもから未来へ、伝えたいこと残したいこと～”と題して、大人が子どもに伝えていきたい経験や思い、将来の子どもたちに残したい風景・伝統、また子どもたちから未来へ向けて伝えたいメッセージなど、100～200文字程度のエピソード作品を全国から幅広く募集します。

全労済では、創立50周年記念事業の一環として、「次の50年を支える子どもたち、そして50年後の子どもたちのために」をテーマに、子どもの育ちを支援する団体を対象に助成活動を実施しています。今回の作品募集では、社会的にも重要なテーマとなっている「子ども」をキーワードに、次の50年、そしてその50年を担う子どもたちについて、生活者の皆さまとともに考え、生活者の皆さまの思いやエピソードを、親から子へ、子どもから未来へ“思いやりのリレー”として大切に伝えていきたいと考えています。

全労済では、1993年より毎年、「暮らしの中のさまざまな声」のテーマを決めて募集し、専門家などの目を通して優秀作品の選考を行い、各メディアを通じて発表しています。昨年実施した“「記念日は心のアルバム」～あなたのアニバーサリーはいつですか？～”には、日本全国から4,725通もの作品応募をいただきました。今回はその第17回目にあたります。優秀作品は、2008年2月に全労済ホームページにて発表し、小冊子にまとめさせていただきます。

本資料をご参考の上、ご紹介を賜りますよう、ご検討の程よろしくお願いします。

【このリリースに関するお問い合わせは下記までお願いします。】

「思いやりのリレー」募集 事務局

(株)サンユー・コミュニケーションズ内

担当：佐々木・日向（ひなた）

〒108-0073 東京都港区三田3-3-8 サンフィールド11ビル3F

TEL：(03)5444-6125 FAX：(03)5442-8622

## 【募集要項】

### ■応募方法

#### (1) 募集内容

大人が子どもに伝えていきたい経験や思い、将来の子どもたちに残したい風景・伝統、また子どもたちから未来へ向けて伝えたいメッセージなどを100～200字程度の文章にしてご応募ください。

#### (2) 応募方法

- ・ハガキから応募の場合：1. 氏名 2. 性別 3. 年齢 4. 郵便番号 5. 住所 6. 電話番号を明記のうえ、下記宛に郵送。  
【宛 先】〒105-1799 芝郵便局留  
「思いやりのリレー」募集 事務局 貴媒体名 係
- ・ホームページ、携帯から応募の場合：  
全労済ホームページで受け付けます。 <http://www.zenrosai.coop>

#### (3) 応募期間

2007年9月29日（土）から 2007年11月22日（木）まで

※ハガキの場合は当日消印有効、ホームページ・携帯の場合は当日発信有効

#### (4) 応募に関するお問合せ先

「思いやりのリレー」募集 事務局

担当：佐々木・日向（ひなた）

TEL：(03) 5444-6125 FAX：(03) 5442-8622

※共済契約の内容に関わるお問い合わせや資料請求は、メールや上記の電話ではお受けできませんので、あらかじめご了承ください。

共済契約等に関するお問合せについては、お手数ですが、全労済お客様サービスセンター（0120-00-6031平日9時～19時）にお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。

### ■選考・発表

ご応募いただいた作品は、全労済で選考を行います。優秀作品については来年2月に全労済ホームページにて発表する予定です。また、作品をまとめた小冊子を作成いたします。

※発表にあたっては、お住まいの都道府県名と年齢・性別のみとさせていただき、お名前については公表いたしません。

※本企画で取得した個人情報については、本企画に関連する業務に限ってのみ使用いたします。

※参考資料「応募作品例」「昨年の入賞作品」をご参照ください。

※応募作品の著作権は、全労済に帰属します。

※他作品の著作権を侵害する恐れのある作品および盗作等の疑いのある作品については、選考から除外します。

※他コンテストにおける受賞作品については、選考から除外します。

### ■表彰

大 賞 1 点 <図書カード 5万円分>

入 賞 10 点 <図書カード 1万円分>

入 選 20 点 <図書カード 3千円分>

特別審査員賞 1 点 <図書カード 3万円分>

## 【応募作品例】

### 遠足のお弁当（10代女性）

前の日お家に帰るとお母さんが「お弁当のおかず何がいい？」と言って、私は「チューリップから揚げ！」と答えた。お母さんのから揚げは一番大好きなのだ。しかし熱が出てしまい、作れなくなってしまった。かわりにお父さんが作ってくれた。お弁当箱を開けると卵はお花に、ウインナーはたこになっていた。から揚げはチューリップじゃなかったけど、お父さんの作った初めてのお弁当。たくさんのお友達が褒めてくれた。私も将来可愛いお弁当を子どもに作りたいな。

### 子どものヒーローは“お父さん”（10代女性）

友人と一緒に旅行に行く途中、車のタイヤが泥にはまり抜けなくなった。その時、車が横にピタッと止まり、息子を連れたお父さんが車から降りてくるなり一緒に車を押しあげ始めた。気がつくとお父さんも私達も泥まみれ。私達はお礼を言い、クリーニング代を差し出したがそのお父さんは受け取らずに一言「その代わり、今度誰か困っている人を助けてあげて下さい。」と言い、去っていった。自然に親切を見せた親はかっこいい。私も将来子供にかっこいい大人と思われたいな。

### 将来私もきっと…（10代女性）

中学2年生の時、成績のことや、友人の様々な問題で母は学校に呼ばれることがあった。授業中の態度の悪さや先生への態度など、高校進学は難しいと言われた。友人関係では喫煙問題に巻き込まれ“信頼”を失い人間不信になった。そんな中、母は「娘は潔白です。そんなことは決してございません！」と言ってくれた。私を信じる母の心は“信頼”を見てくれた。母は「自分の子どもを信じない親がどこにいるの！」と抱きしめた。この時を決して忘れない。将来母の様なお母さんになります。

### 子どもに寄り添うひと言（10代男性）

第一志望の県立高校はまさかの不合格。自分の名前を見つけられず、とてもつらい思いで家に電話をしました。「そう、挽回のチャンスはきっとあるよ。今日は好物の焼肉にしようね！」僕の失敗をひと言も責めず、落ち込んでいる自分にそっと寄り添ってくれる、そんな母の思いやりを感じました。将来自分に子どもができたら、母のように子どもに接したいと思います。

### 雨の帰り道（10代女性）

部活の帰り道、突然の雨。駅から仕方なく雨の中を歩き出したら、後ろからすっと傘をさしかけられた。「よかつたら入っていきませんか？」振り返ると、知らない中年女性でした。「あ、ありがとうございます」結局、自宅近くまで入れていただきました。「こんな大人になりたいな」と感じたひと時でした。

### お父さんお母さん、ありがとう。（20代男性）

アパレルに就職した私は初給料で両親に勤務先の洋服をプレゼントした。両親はとても喜んでくれました。両親は「こんなに立派な息子を授かって本当に私たちは幸せだね」と言ってくれました。そして私の今までの成長の思い出を沢山話してくれました。私は改めて両親の子どもであることを幸せに思い、私も子どもに幸せと思ってもらえる家庭を作りたいです。

### 思い出の場所（20代男性）

小学生の頃の夏休み、新幹線で田舎の祖父母の家に行き、近くの田んぼでアメンボや蛙と遊ぶことを毎年楽しみにしていました。しかし中学生になり、部活を始めると行くことができなくなってしまいました。毎年夏になるとあの田んぼで遊んだことを思い出し、昨年久しぶりに祖父母を訪ねると意気揚々とあの田んぼに向かいました。しかしそこには一軒家が建っていました。幼いころの記憶が詰まっている場所は大人になっても残しておきたい、そう思った瞬間でした。

## 大切な資源（30代女性）

買い物をすると気になること、それは過剰包装です。ついに仕上げてくれて大変きれいなのですが、果たして地球環境が危ぶまれている今、本当に必要なのかと疑問に思っていました。我が家にはお店でもらった袋が日々増え続け、それを見た私はこのまま放っておくとこの袋は膨大な量のゴミとなってしまうと感じました。資源には限りがあり、大切にしなくては娘が大きくなつた将来大変なことになると思い、それ以来エコバッグを持ち歩くようになりました。

## 背筋が伸びた瞬間（30代女性）

子どもたちが小学生の頃、主人が北海道へ単身赴任になった。私は両親の二役と子どもの受験のプレッシャーとで主人の出発日が近づくにつれ、ストレスが溜まり不安で押しつぶされそうになっていた。そんな時、子どもたちが私の所へ歩み寄り「私達がママのこと守るから安心してね」と言ってくれた。更に息子は「僕がパパになるから大丈夫だよ」と。私ははっとした。子どもたちの方が不安でいっぱいなのに。気付かない間の子どもの成長に母として背筋が伸びた瞬間だった。

## 思い出の“母の日”（40代女性）

息子は今年から社会人1年生になった。息子は毎年「母の日」になると大きな花束を贈ってくれる。そして今年も「母の日」がやってきた。毎年違う花束をプレゼントしてくれる息子。今年はどんな花束なのかとその日を迎えた。「ただいま。いつもありがとう」と手渡された袋の中には小包が一つ入っていた。中を開けると以前私が欲しかった財布だった。息子の初給料での初めてのプレゼント。一人前の息子からのプレゼント。一生の宝物だ。

## 小鳥の鳴き声の聞こえる山（50代女性）

50代になってから始めた山歩き。先日も主人と東丹沢に行ってきました。途中、間伐材を使って、鳥の巣箱作りのボランティアを長年続けられているという男性と知り合いました。「孫の子どもたちやその孫まで、小鳥の鳴き声が聞こえる山にしたいですから」自分たち人間だけでなく、生き物すべてに対する思いやりを大切に伝えていきたいと感じた出会いでした。

## 身近なやさしさ（60代男性）

昨年から膝の節々が痛み、今年に入り益々痛み外出がおっくうになり、家族との会話も減る一方だった。そんな私は当然リハビリから逃げていた。ある日、髪のカットはどうしようもなく外出をすることになった。車中はやはり混雑しており関節痛はすぐに私を襲ってきた。そんな私を察知したかの様にある学生の女の子が席を譲ってくれた。女の子は「お気をつけてください」と軽く会釈し下車した。私は小さな気遣いに心が温まった。そしてリハビリの決心をした。

## 駅で出会った若者（70代女性）

最近年のせいか、階段の上り下りがつらく、先日も所用ででかけた際に駅の階段で立ち往生してしまいました。「大丈夫ですか？」一人の若い男性が声をかけてくれ、階段の上まで荷物を持ってくれました。染めた髪に、ピアスという外見からは想像できないような親切な方でした。「こんな若い方がこれから世の中をつくっていくなら日本の未来も悪くもないな」と感じた出来事でした。

## ＜参考資料＞

### 【昨年の入賞作品】

#### ■大賞 1 点

##### 「おかえりなさい お父さん」

大阪府 58 歳 女性

その日に夫は辞職し、単身赴任先の東京から私たち家族が待つ大阪へ帰ってきました。入社した日から連日の激務に勝ち残り、ついに手にした代表取締役社長という立場でしたが、父親不在となった家庭で高校生の 2 人の息子たちに歪みが生じはじめました。私 1 人ではどうすることもできなくなつたとき夫は「社長の代わりはあっても父親の代わりはない」と決断してくれた、家族にとっては終生忘れられない日です。

#### ◆特別審査員賞 1 点 (根本美緒さん選定)

##### 「父の温かさを感じた落胆記念日」

奈良県 37 歳 女性

第一希望大学受験の合格発表日。サクラチルわたし。泣きながら電話をすると、すぐに出た父が「よかよか、早よう帰って来い」と一緒に泣きながら何度も何度も言ってくれた。どんな状況でも帰る家があること。同じ気持ちで見守っている家族があること。人生最大の落胆記念日。わたしはこの日、人生最大級の父の温かさと、家族のかけがえのなさを感じた。去年亡くなつたお父さん。あの日のこと、忘れないよ。

#### ■入賞 10 点

##### ① 「赤いカーネーション」

宮城県 53 歳 女性

「お母さん、僕のお年玉返して」突然、長男からの要求。何で、何に使うのと、ダメダメ攻撃に出たがどうしてもと言うので千円をわたした。

私は最後まで、無駄使いはダメよと念を押した。

帰宅した長男の手には赤いカーネーション。

「母の日おめでとう」思いがけないプレゼントに私は涙ボロボロ。自分のいたらなさと息子の成長に感動した日だった。

20 年以上も前の事なのに思い出すたびに鼻の奥がツンとするひとコマだ。

##### ② 「粋な応援」

埼玉県 38 歳 女性

「遠回りしますか？」とタクシーの運転手が言いました。1993 年 6 月 20 日のこと。駅からタクシーに乗った私と彼。行き先は私の家です。彼の背中は緊張して丸くなり、独り言を繰り返している……。

私は小さく「大丈夫？」と見上げる……。

運転手は「少し流しましょう」と言い換えて、迂回しました。5 分で着くところを、30 分。

晴れて、結婚を許された日の陰には、粋な応援があったのです。

##### ③ 「手作りのお雛様」

石川県 44 歳 女性

私が幼い頃、父の会社が倒産し、立派な段飾りのお雛様がほしいとは言えませんでした。ひな祭りの前日、夜まで日雇いで働いている父母の帰りを待ちながら、段飾りのお雛様の絵を描き眠ってしまいました。3 月 3 日の朝、目が覚めるとテーブルに段飾りのお雛様がありました。卵の殻で作られたお雛様。いくつもの卵を割らないよう中身を吸っては出し、色を付け、空箱で父と母が一生懸命手作りしてくれたお雛様。あの時のお雛様を、3 月 3 日が来るたび思い出し、心あたたかになります。

**④ 「父からの厳しいプレゼント」**

奈良県 30歳 女性

7年前のクリスマスイブ。息子の知的障害を告知されました。ショックで呆然として、旦那や自分の両親に八つ当たりしまくりました。その時父親が「お前は子供だけ見てればいいけど、旦那はお前と子供を見なあかん！オレや母ちゃんはお前ら三人を見てなあかん！辛いのが自分だけやと思うな！甘えるな！」と怒りました。あの時の父の言葉があったから、今の私が居ると思ってます。この人の娘で良かったと思いました。今までで最高のプレゼントでした。

**⑤ 「優しい人になれた日」**

京都府 36歳 女性

15年前の5月21日、私はパニック障害を発症しました。以来多くの自由と時間を奪われ、何度も自殺を考えました。でも得たものがあります。それは人を思いやる心です。弱い者になって、初めて弱い者の気持ちが分かりました。まだまだ病気との闘いは続きますが、こうならなかつたら私は一生自分勝手な人間でした。この日は私が優しい人になれた記念日です。

**⑥ 「12月の七五三記念日」**

兵庫県 35歳 女性

2年前の12月、寒空の下で急遽おこなった息子（当時3歳）の七五三参り。他に参る家族はなく寂しい神社ではあったけれど、孫のはかま姿を目を細めて穏やかに眺める父の表情がたまらなくうれしかった。その2ヵ月後、父はガンのため亡くなつた。今年、5歳になった息子は2回目の七五三。じいじに買ってもらった2年前と同じはかまをはいて同じ神社の鳥居をくぐったとたん「ここ、知ってる！じいじと行った所や！！」と目を輝かせて叫んだ。ちゃんと覚えていたんだね。家族みんな忘れることのない、12月の七五三記念日。

**⑦ 「先輩が兄貴になった日」**

鹿児島県 42歳 男性

21歳の冬、若くして大失敗し、自宅謹慎となり職場の忘年会も当然ながら欠席。寒い部屋でひとり落ち込んでいた時、忘年会を抜け出てきた先輩が突然現れ、「ふたりで忘年会しよう」と私をスナックに連れ出した。普段、無口な先輩がそこで歌ってくれたのが「酒と泪と男と女」。先輩の優しさを知り、あふれ出る涙をこらえきれなかったことを今も忘れない。それ以来、私はその先輩を「兄貴」と呼んでいる。

**⑧ 「お母さん、いつもお仕事ごくろうさま」**

三重県 38歳 女性

私は軽い自閉症をもつ子供の母親です。離婚をして6年、無我夢中で生活をしてきました。母親に子供を見てもらい、朝から夜まで仕事をし、淋しいのを我慢させてきていました。去年の11月23日勤労感謝の日、夜遅く帰ってきた私に手紙とケーキが…『お母さん、いつもお仕事ごくろうさま』と…いつも疲れてため息の日々でしたが、その時は涙がとまりませんでした。最高の記念日です。

**⑨ 「新しい人生の出発点」**

東京都 74歳 女性

敗戦の年の6月、父がフィリピンで自決したとの公報が疎開先の長野の寒村に届いたのは12月だった。東京へ帰る為、母と歩いた国鉄駅への二里の山道は一面の銀世界。雪は全ての色と音を消し、動くものは荷物を背負って凍りついた雪を踏んで行く二人の姿だけ。泣きながら歩いた峠道は今も目の前に続く。あれから70年近く、既に父母の生きた年月を越えた私。人は『終戦』というが私には『敗戦』。あの日が私の新しい人生の出発点。

⑩ 「嬉し涙の記念日」

神奈川県 52歳 女性

現在30歳の息子は17歳からいじめなどにより、11年間ひきこもりになっておりましたが、2年前の8月6日に「働いてみる」と言い、バイトですが、その後ずっと休まず働いています。それまでの11年間は語り尽くせないほど壮絶な日々でしたが、その日より喜びの日々となりました。8月6日・・・それは嬉し涙の記念日なのです。